



私大連フォーラム 2022

同志社大学 プロジェクト科目 事例報告

京丹後移住促進プロジェクト～新たな地方移住の仕組みづくり～

日本アイ・ビー・エム株式会社 マネージングコンサルタント

同志社大学全学共通教養教育センター 嘱託講師

泉川 大樹

プロジェクト科目の概要

同志社大学の『プロジェクト科目』は、地域社会や企業と連携した実践・参加型のプロジェクト・ベースド・ラーニング。2006年度より、1年間（活動期間は実質10カ月）・4単位の全学共通教養科目として開講。

※一部春・秋のみの開講科目、2単位の科目もあり。

開講テーマ	学内外からの公募で選出（3年間は同一テーマで開講可）
受講対象	全学部・全学年の2年生～4年生（同一テーマの再受講不可）
人数	15名程度（最低5名・最大19名）
プロジェクト数	11プロジェクト（2022年実績）
予算	60万円（各プロジェクト、年間）＋補助金等（プロジェクト毎に確保）
授業回数	春・秋学期連結で年間30回
運営体制	科目担当者、科目代表者（大学専任教員）、SA/TA、事務局
成果報告	成果報告会（7月、1月）、レポート

<プロジェクト科目の位置づけ>



(参考) 開講テーマ

現代社会が抱える問題や課題を様々な視点から捉え、反映させたテーマが多く開講されている。

<開講テーマ (2022年度) >

- 子どもたちのための「キリスト降誕人形劇」プロジェクト
- 持続可能社会実現プロジェクトー地域資源を活かしてー
- S D G s 世代に贈る！「こどもと社会をつなげるゲーム」デザイン
- 留学生と創る！京の台所錦市場（食文化）マイクロツーリズム読本
- 京都の伝統織物ができるまでーオンライン体験を考えるー
- “w i t h コロナ時代”のコミュニティカフェのデザイン
- 京都・伏見で酒ツーリズムのしくみをつくる
- クリエイティブな映像制作でインターネットの安心安全を守る！
- **京丹後移住促進プロジェクト～新たな地方移住の仕組みづくり～**
- 伝統を未来へつなぐために古典籍の魅力を子どもたちへ
- 未来につなぐ！世界と日本の着物絵本制作プロジェクト

プロジェクト科目への参加理由

科目設置趣旨への賛同が、自分自身が履修生として、また、講師としての参加理由。

<設置趣旨>

1	講義形式による系統的知識や理論の伝授を中心とした授業形態とは異なった、プロジェクト遂行型の授業科目を設置することで、 学生の「学ぶ意欲」や問題発見・解決能力を育み 、教養教育を中心とした本学のいっそうの教育の充実と多様化を図る。
2	社会で役立つ実践的スキルやノウハウの単なる伝授をその設置目的とするのではなく、具体的プロジェクトに即して履修生自身に 問題を考え抜く習慣や力を養成 することを主たる目的とする。
3	フィールドワークなどによる 「現場に学ぶ」視点を基本 に、履修生の協同によるプロジェクトの自発的・自主的運営を重視し、プロジェクトの遂行を通してコミュニケーション能力、企画立案能力、自己管理能力など、学生の総合的人間力を育成する。
4	教育の面での産官学地域連携の推進を図る。

出典：プロジェクト科目公募説明会資料
※ 青字は、講師により付与。

学生時代の活動

2011年度開講科目『京丹後漁業活性化プロジェクト～新たな地域ブランド商品の開発～』に履修生として参加。地域の方々と協業し、未利用魚を活用した商品開発・販売を実践。

同志社大学プロジェクト科目 京丹後漁業活性化プロジェクト～新たな地域ブランド商品の開発～



プロジェクト概要

本プロジェクトは、京都府 京丹後市 間人（たいざ）地区への移住を促進することを目的として、2021年度より活動している。

プロジェクト内容

京都府 京丹後市 間人（たいざ）地区を舞台に、学生が地域の人々と協力して間人が移住者に選ばれる地域になるための仕組みを提案・実践する。

2021年度の成果

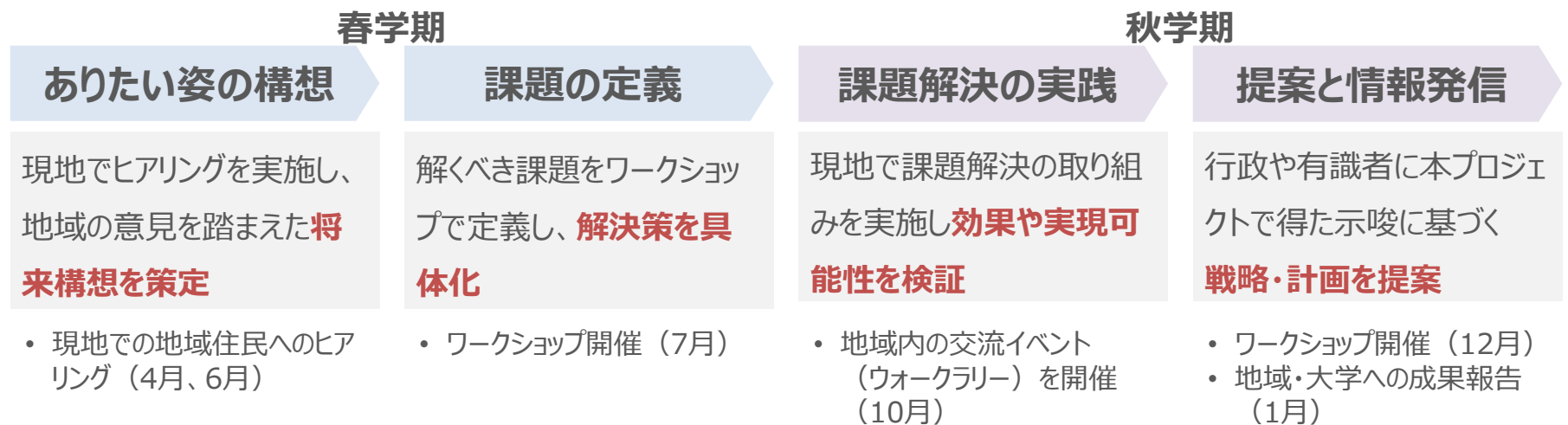
地域住民一人ひとりが地域課題に目を向け、継続的かつ主体的に町づくり活動を行うことができる土台を構築したこと。

2022年度の目標

内からも外からも愛される町を構想し、実現のための一歩を踏み出すこと。

※ 内：地域に住む住民、外：潜在的な移住者

今年度のアプローチ



連携先

京都府京丹後市丹後町間人（たいざ）地区と連携。漁業が主な産業で、日本一高価とも言われる『間人がに』等の海産物に恵まれるが、高齢化率は京丹後市内でも特に高く、地域コミュニティの維持が課題。

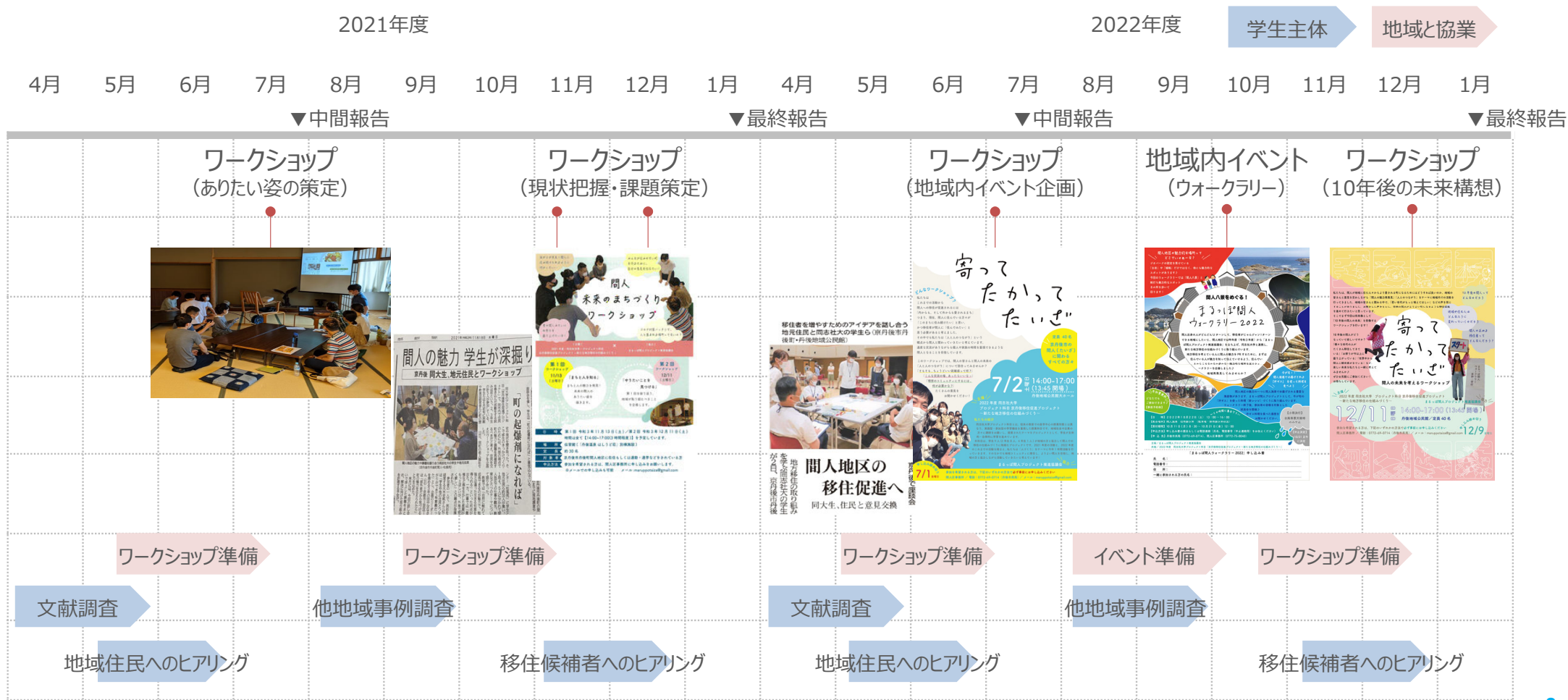
項目	平成22年	令和2年
人口	2,193人	1,728人
人口増減割合（対 10年前）	-	78.8%
高齢者（65歳以上）割合（*）	34.5%	44.2%
世帯数	851世帯	756世帯
高齢者のみ世帯割合	33.6%	41.5%
漁業従事者数	86人	76人
業者増減割合（対 10年前）	-	88.4%
漁獲高	281百万円	297百万円
漁獲高増減割合（対 10年前）		105.7%



(*）日本全体：28.4%、京丹後市：35.7%

活動内容（2021年度～2022年度）

2021年度は5名、2022年度は7名の学生が活動を推進。年度毎に学生のメンバーは全員入れ替わり、各年度内で完結する構成ながら、過年度受講生や地域住民の継続的な関与で、活動に連続性を持たせている。



成果（履修生の視点から）

履修生は、問題発見・解決やプロジェクトマネジメント等、変化の大きな社会を主体的に生きるために必要な能力につき、試行錯誤を繰り返しながらも、現場での活動で体得している。

Before

- ✓ 与えられた問題を速く、かつ、正確に解く
- ✓ 質問されたら答える
- ✓ とりあえずやってみる
- ✓ 自己流で取り組む



自分で問題を
作った経験はない

ヒアリングで何を
質問すればよいか
わからない



- 書籍等による独学
- 授業での演習
- 実践での経験

<授業内で問題発見の演習を行う様子>



After

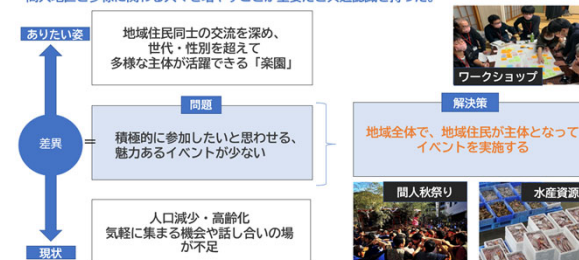
- ✓ 自ら解く価値のある問題を見つける
- ✓ 積極的に問いを発する
- ✓ 常に仮説を持つ
- ✓ 先人の知恵を活用する

<学生が地域の方と発見した問題と解決方針（例）>

「日本一面白い港」をキャッチコピーに漁業関係者のみならず、地域住民全員が楽しめる港を作ることで、地域外の人にも誇れる町にしたいという共通認識を持った。



「楽園」をキャッチコピーに、間人地区が「魅力ある生き生きとしたまち」になる解決策を考え、間人地区と多様に関わる人々を増やすことが重要だと共通認識を持った。



出典：2021年度秋学期成果報告会発表資料（履修生にて作成）

履修生の感想

履修生は、時に不安を感じながらも、授業を通して成長し、授業以外の場面でも活躍。



R.Nさん（2年生）

この科目は、現在自分たちがやっていることが正しいのか不安を抱えながらだったり、大変だと感じたりする時もあります。しかし、メンバーと協力し合いながら主体的に活動でき、学ぶことや刺激も多いため、履修してよかったと思っています。

授業で得た知識や経験を、他地域への提案（アイデアコンテスト）に活用した結果、優勝することができました。自分でも気づかぬうちに、授業でたくさん学びを得ていたんだと思いました。



R.Hさん（4年生）



M.Iさん（4年生）

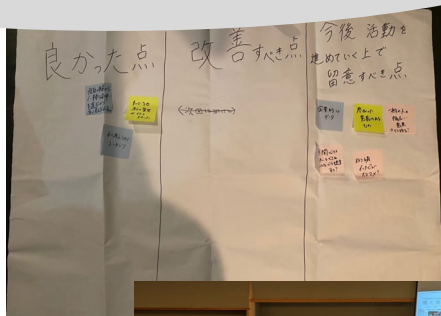
メンバーや先生方の考えや行動からの学びが多く、よいところは真似して自分自身の成長にもつながったと感じています。ワークショップ前は初対面の人とうまく話せるかなと不安に感じていましたが、今ではその抵抗はほとんどなくなりました！

成果（地域の視点から）

学生の主体的な関与により、地域の方々のまちづくりに対する気持ちが大きく変化。ワークショップは回を重ねるごとに活発な議論が行われるようになっていった。

Before

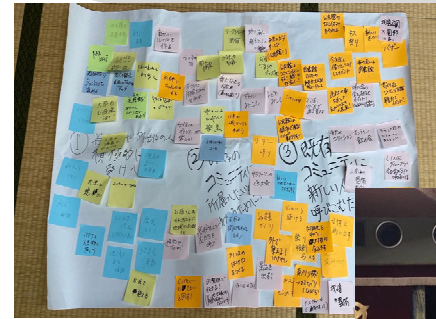
町の住民の多くはまちづくりに
消極的・・・中心メンバーで
話し合わないと、まとまらないだろう



間人区長

After

間人には、まだまだ可能性がある！
より多くの住民の意見を聞き、
町の方針を定めていきたい



みんな間人が好きなんだなと感じました

間人で今回は初のワークショップとして、間人の人達とお話し
する事ができ、おなじみなおかひの店と感じました。

一生懸命に地域の話を聞いて

地域コミュニティ、大切だなと思っ
笑顔のおふれ間人になってほしいです

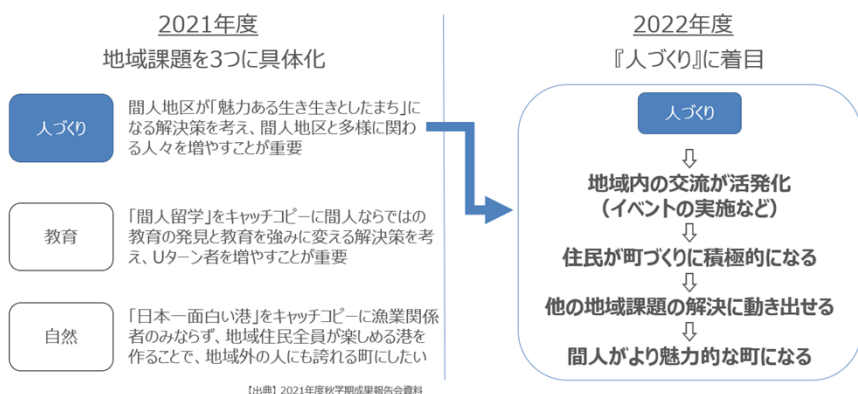
出典：2021年度第2回ワークショップ後アンケート

成果（地域・学生協業の視点から）

昨年度に策定した課題を踏まえてワークショップで学生と地域住民が共にイベントを企画・構想し、成功させた。

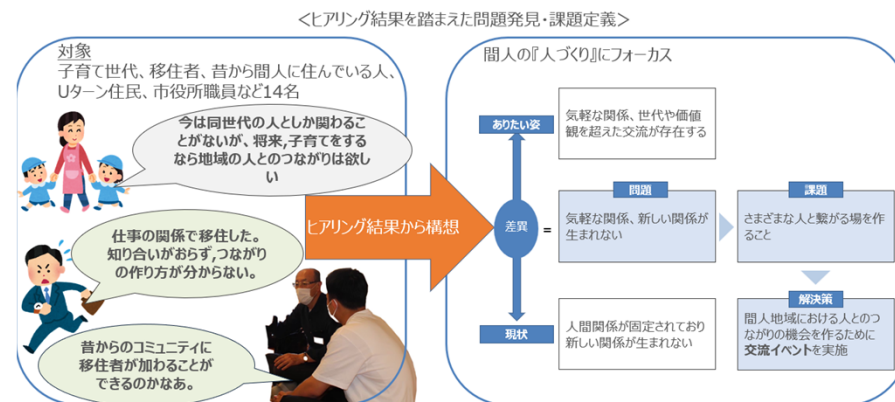
1. 昨年度に定めた課題の具体化

間人地区を移住者に選ばれる町にするために、間人の『人づくり』に焦点を当てることを決定した。



2. 追加調査を経て解決策につき仮説立て

合計14名に実施したヒアリング調査によって、『人づくり』に焦点を当てた地域のありたい姿・現状・問題・課題を定め、具体的な解決策として地域住民同士の交流を目的とした『交流イベント』を実施することを提案した。



3. ワorkshopでの仮説検証・アイデア検討

ワークショップでは、『交流イベント』の企画案を学生と住民のチームで4件検討し、実現への道筋をつけた。秋に予定されている地域の祭り（キス祭り）と連携した実施を検討している。

タイトル	『間人八景スタンプラリー』	『織物文化を学ぶ会』	『キスも屋台もアゲちゃおう！』『間人の漁師飯をいっただごう！』
企画案写真			
内容	間人が誇る八つの景色を巡るスタンプラリー	間人伝統の織物文化を学ぶ会	キス料理の屋台を出店しおみこしをかつぐ
今後の流れ	交流イベントは、今年10月に間人で行われる「キス祭り」の企画として行う。「キス祭り」とは、キスの料理を販売する祭りであり、地域内の様々な方々が気軽に集まるため、世代や価値観が違う人との交流という目的を達成することができると思う。		

4. イベント（ウォークラリー）の実施



出典：2022年度春学期成果報告会発表資料（履修生にて作成）

今後の展開

2年間の活動内容を踏まえて、10年後の未来の構想と、それを実現するためのロードマップを、地域住民の方々と策定中。来年度以降は当該ロードマップを踏まえた具体的な活動を推進。

〈間人地区への移住に至るステップの履修生による仮説〉

